

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700311		
法人名	メディカルケア御所ノ内株式会社		
事業所名	御所ノ内ホーム ごじょう西小路 (2階 東山)		
所在地	京都府京都市右京区西院追分町5番地		
自己評価作成日	平成29年11月3日	評価結果市町村受理日	平成30年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2690700311-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成29年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・会議室を提供(町内会へ)町内の運動会への参加。小学生の体験受け入れなど通じて事業所やご利用者様を理解して頂けるように、今後も交流を広げたい。</p> <p>・ショッピングモールや、公園がすぐ近くにあることからご利用者様に気分転換をして頂ける環境が整っている。 京都武田病院のグループ施設のため医療との連携が強く、ご入居頂いている方の受診は施設職員が行かせて頂くためご家族様の負担も少ない。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(3階 嵐山)と同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月曜日の朝礼時に復唱しており、職員一人一人の心の依りどころとして、日々のケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に出席して頂きご利用者様の生活や状態の報告を行うと共に、施設内を見て頂く機械も作っている。学区の防災訓練や区民運動会などにも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設から日も浅いため、まずは事業所を知って貰い、認知症や介護について、気軽に相談して頂けるよう働きかけていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内の取り組みなどの報告を行い、意見を頂いたり、行事に参加して頂けるようお知らせもしている。地域の民生委員や回覧板などからも地域行事の情報も得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上で不明な点があった場合に相談・報告をしている。運営推進会議や事故のあった場合報告を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者様の安全を第一と考えたケアを心がけており、身体拘束に関しては、内部研修において取り上げ、周知している。		

京都府 御所ノ内ホーム ごじょう西小路（2階 東山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修において取り上げており、虐待が及ぼす精神的ストレスを理解し、見過ごすことのない様に心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人としての尊敬を重んじ、カンファレンスを行い、個人の思いに寄り添える様関係者に働き掛ける。職員の理解を高める為、内部研修に取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長・ケアマネ・看護師などの専門職が立ち合い、ご家族様やご利用者様が安心して頂ける様に説明する機会を作っている。また、質問しやすい環境作りの為にご家族様が面会に来られた際にコミュニケーションを取る努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接に来られた際、職員に話された事や、電話でのやり取りと正しく伝え、施設長への報告する環境を整えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議での内容を施設長が把握し、議事録を全職員が見れるようにしている。個々の職員の意見などを聞き施設に必要なこと、職場環境の改善になることは可能な限り反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表の用い、職員個人の職員倫理感や、職場における職務についての自己評価を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修をはじめ、委員会活動を通じてのスキルアップや役職や経験に依り、外部での研修を受講する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所との連携や他事業所との情報交換、地域包括や、福祉用具の業者との協力体制を円滑に行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅や入院先に訪問し、ご本人の身体状態や生活における不安や要望を伺い、入所後の生活に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの段階でご本人の生活歴や、ご家族との関わりを把握し、より良い関係を築けるプランを提示している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネ・看護師同行の上、訪問しご本人やご家族のニーズを把握した上で、提供するサービスを考える。事業所内だけでなく、柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添う事で信頼関係を築き、日々の掃除や食事の準備等を一緒に行える環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	身体・精神面だけではなく、日常のご様子を知って頂き、情報を共有する事で、協力しあえる関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる方から情報を頂き、ご利用者から話を引き出す様に働き掛けている。又、好きな店の好み品を購入できる機械も作っている。		

京都府 御所ノ内ホーム ごじょう西小路（2階 東山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	テーブル席に配慮し、ご利用者同士の会話 にも注意している。職員がサポートする事で トラブルを回避し、楽しい時間が共有できる 様に心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者の状態が変わり、他事業所への 移られる際の相談や転移先への速やかな 情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご利用前の面接や、ケースカンファレンス等 を通じご本人やご家族の希望を伺ってい る。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご利用前の面接により、ご本人とご家族か ら情報収集している。外部のサービスをご 利用されていた場合にはその事業所へ情 報提供を求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	状態に変化が見られた場合には支援記録 等に記載し、現状把握すると共に、会議の 中で今後の支援について話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンス以外でも、日常的に討 議しており、サービス内容に変更があった 際には申し送りノートを利用し周知してい る。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケースカンファレンスを通じ、職員からの情 報を収集しており、課題や希望に変更が発 生した場合は介護計画を見直している。		

京都府 御所ノ内ホーム ごじょう西小路（2階 東山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体機能の向上に向けてかかりつけ医に相談の上、専門職と連携できる機会を持つように働きかけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常の買い物に近隣のお店をご利用者と共に利用している。また学区内の小学校の体験授業に招き、交流する機会を持つ事ができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用前の面接時に意向を確認している。協力医療機関との連携については、看護師を中心に、相談連絡が可能な体制を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常にご利用者の状態を伝え相談できる体制になっており、看護師からも申し送りノートを使い、職員からも周知ができる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報は事業所から提供している。退院時には入院中の状態等を書面で情報提供を依頼する等関係作りを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や面接の際にご家族から意向を伺っている。状態が変化した際には速やかに情報を提供し支援に繋げる体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で「緊急時の対応」をテーマに取り上げている。今後は外部への研修にも参加し、スキルアップを図っていきたい。		

京都府 御所ノ内ホーム ごじょう西小路（2階 東山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内でマニュアルを作成し、職員に周知している。避難訓練や緊急連絡網の訓練も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する研修を予定している。ご利用者への言葉掛けや対応は、尊厳を損ねない様、職員同士で注意し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思っていることを表す事は本人との関係性が良好でなければ出来ないと考え、接遇に関しての内部研修の実施し、コミュニケーション技術の向上を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人がどのように考え、どのように思われるかを想定した上でのサービス提供を心掛ける事により、職員の業務を優先するといった事を回避できると考え、実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで衣服を購入できるように一緒に外出する事もある。また、身だしなみに関しては、起床時着替え・髪の毛のとか等毎日実施している。好みのシャンプーを使用されていた方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の関係により気の合う合わないがある為、座る場所には配慮している。また調理(食材のカットや味見等)の際に利用者と一緒に実施している事が多い。食材の買出し時は、利用者間の会話にもつながっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分表は一目で1日の摂取量が確認できるように書面に記載している。栄養バランスが偏らないように献立作成時に複数の人間が目を通してメニューを決定している。		

京都府 御所ノ内ホーム ごじょう西小路（2階 東山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。その際に、口腔内の状態も併せて確認している。また、入れ歯を使用されている方は毎晩、入れ歯洗浄剤を使用し、口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄と水分摂取がいつ行われたかを把握できる記録を取り、利用する事で、個人の排尿・排便間隔を掴み、それを基に事前にトイレでの排泄行為が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で本人の状態にあった体の動きを多く取り入れられるように支援すると共に水分摂取に関しては、その日の水分量を把握し、少ない場合には、甘みを付ける等の個人が摂取できるような工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴して頂く為の工夫として、入浴前にゆっくりと話しをし、本人が入る気持ちになられた上での入浴を実施。また、本人が好む湯温を知り、調整するといった工夫もしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類は、定期的かつ汚れた場合には交換している。気温変化への配慮として、部屋全体の適温に保つ事もしている。利用者の精神面での不安定が見られる場合は、落ち着く為に話を聴く等し、就寝前の支援が安眠につながるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変薬があった際には変更日・変更薬名称を記入して周知徹底している。誤薬予防の対策として薬ケースに個人の服薬量を明記している。目的・副作用に関してもケースファイルに綴じており、いつでも閲覧可能な状態である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活においては、食事の準備や洗濯・掃除等役割を持って生活できる様に支援している。また個人の嗜好に合わせて、昼食後にコーヒーを提供している。		

京都府 御所ノ内ホーム ごじょう西小路（2階 東山）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への買い物や散歩は日常的に行っており、動物園や図書館等にも出向いている。外出支援として紅葉狩りを予定しており、馴染みの場所や、行きたい場所への聞きとりをしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、ご自信での支払いは支援していないが、今後はご利用者の能力に応じて、支払って頂く機械を作りたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との関係が良好になる様ご利用者や自らの思いを手紙にし、やり取りが出来る為の支援を行った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂にはカーテンを設置し採光調整が出来るようにしている。壁にカレンダーや時計を掛けている。湿温度計を設置し、ご利用者に合わせた空調を心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の座る位置に配慮し、トラブルが起きない様にしている。ご利用者が好きな場所で過ごせる様に支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様が選ばれた家具や寝具を使っておられ、中には好みの食器を持って来られ、使っておられる方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設置しているものの用途が判り易いように、大きな文字や絵で表すなど工夫している。		